



～地域とともにある学校をめざして～

鯺コミ

R6年度 CS通信No.12 R7.1.10



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

西海小 2 年児童が紙版画の刷りに挑戦(12/20)



紙版画の刷りには、学級担任や校長先生の他に、地域学校協働活動推進員の工藤律子さんが呼び掛けた学校支援ボランティア 4 名が集まり、児童の活動支援を行いました。

紙版画の刷りは、ローラーを使ってインクをつけた原版(児童の作品)に版画用紙を載せ、児童がバレンを使って刷り上げていきます。

学校支援ボランティアの皆さんは、学級担任の指示を受け、版画用紙を押さえる仕事や刷った版画用紙を運ぶ仕事を分担して行っていました。

紙版画の刷りに学校支援ボランティアが入ることにより、学級担任や校長先生は、原版にインクをつけることに専念できます。また、児童は手を汚すことなく、バレンで紙版画を刷り上げることができるので、たいへんきれいに仕上がります。

学校支援ボランティアの皆さんは、できた作品のすばらしさに見入り、支援したことへの喜びを感じていました。

子どもたちは、できた作品に満足し、笑顔でみんなに自分の作品を紹介していました。

第 2 回学校運営協議会開催(12/25)

この日は、11 月 9 日(土)に行われたタウンミーティング(テーマ「地域の文化や祭りを伝承するために、学校と家庭・地域はどのような協力をしていけばよいか。」)における話し合いの内容について、学校運営協議会がどのように関わっていけばよいのかを熟議しました。

校長先生方からは、

- ・ふるさと学習を通して、歴史的な部分や文化

的な部分の体験活動に関わっていける。

- ・放課後児童クラブで、地域の方の都合を考えながら、踊りや囃子の体験を週 1 回でも行う。
 - ・町内によって踊りと囃子が多少異なるので、踊りと囃子を統一できるかが課題である。
 - ・祭りがどのような祭りなのか知ることが必要である。(祭りのことを知らない町民が多い。)
- と、という意見がありました。



委員の皆さんからは、

- ・鯺ヶ沢の祭りであれば、鯺ヶ沢甚句のように、小学校 1 年生から踊りを練習すればどうか。
- ・親としても祭りが他人事のようにしているので、参観日を使って保護者にも伝えてほしい。
- ・白八幡宮に限らず、鯺ヶ沢の歴史について、町民はあまり知らない。そういうことも含めて広めていく必要がある。
- ・大祭についてのスケジュールや中学生の役割を早めに教えてほしい。
- ・具体的に何ができるかわからないが、高校でもボランティアとしてできることはやりたいと考えている。
- ・地域でも参加人数が何人であれ、協力する体制作りはしたいと思っている。

と、という意見がありました。

タウンミーティングを行って、それで終わるのではなく、タウンミーティングでの話し合いの内容を受けて、学校運営協議会で熟議することは大変有意義と感じました。

次回の第 3 回学校運営協議会(2/25)では、各小中学校の令和 7 年度学校運営方針を承認したり、事業計画を審議したりします。